

終戦70周年平和祈念事業

ドキュメンタリー「疎開した40万冊の図書」上映会の開催について

1 趣 旨

志木市立いろは遊学館では、終戦70周年平和祈念事業として、戦争末期に都立日比谷図書館の蔵書や個人が所有していた貴重図書を買取り、疎開させた40万冊の図書の疎開先が、現在の志木市とあきる野市であった実話を描いたドキュメンタリー映画「疎開した40万冊の図書」（監督：金高謙二）の上映会を開催し、戦時下に「本」を守った舞台が志木市であったことを多くの市民に知ってもらうとともに、平和の尊さについて改めて考える機会を提供します。

2 内 容 映画「疎開した40万冊の図書」（102分）の上映会及び
金高謙二監督のトークショー（約30分）

3 日 時 平成27年8月1日（土） 1回目：午前10時～
2回目：午後1時30分～

4 場 所 志木市立いろは遊学館 3階ホール
（志木市本町1丁目10番1号）

5 参加費 高校生以上500円（中学生以下無料）

6 定 員 各回ともに150人（定員になり次第締切）

7 申込み 7月31日（金）までにいろは遊学館へ電話または直接

◆映画のあらすじ

昭和18年、戦局の悪化に伴い、東京市立日比谷図書館蔵書の疎開が検討され、一部が奥多摩の多西村（現あきる野市）に疎開をはじめた。昭和19年に新しく館長に就任した中田邦造を中心に残る蔵書26万冊の疎開が検討されたが、運ぶ人手も戦地に取られるなか、当時の都立一中（現日比谷高校）の生徒を動員し、さらに、民間人が蒐集した貴重本を買上げ、疎開させた。この後、旧日比谷図書館は空襲により焼失したが、この疎開により40万冊の図書が守られた。戦争は、人命だけでなく、多くの貴重な文化をも喪失するものである。そんななか、貴重な文化を守るべく多くの人々が協力し、その中に志木市の旧家、西川家（志木市本町）が疎開先として、約10万冊（受入数として一番多い）を預かった。

8 その他

今回の上映会にあわせ、柳瀬川図書館、いろは遊学図書館、宗岡公民館及び宗岡第二公民館において「疎開した40万冊の図書」映画会パネル展を行います。

展示期間及び会場：7月14日（火）～31日（金）いろは遊学館

7月11日（土）～16日（木）宗岡公民館

7月17日（金）～23日（木）宗岡第二公民館

7月24日（金）～31日（金）柳瀬川図書館

記 者 発 表 資 料

平成27年7月21日

教育政策部いろは遊学館

担当者／主査 下河辺 信行

電話番号／048-471-1297

志 木 市